

第5回
浅草地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：令和6年8月21日（水）
10：00～11：40
場所：台東区民会館 特別会議室（大）

10時00分 開会

1 開 会

2 会長挨拶

3 議事

○事務局 次第の「3. 議事」に入る前にお断りさせていただきます。本会議は設置要綱の第8条の規定に基づきまして、会議および会議録を公開させていただきます。会議資料と議事録は内容を確認しまして、発言者のお名前を伏せさせていただいた上で、区のホームページで後日公開させていただくことをご了承いただければと思います。それでは、以降の議事につきましては会長、よろしくお願いたします。

○会長 それでは、お手元にあります議事次第をご覧ください。今日は議事として「(5) その他」を含めて5つ用意されていますが、最初の2つがこれまでの振り返りと、各部会での議論の状況の共有について、3番目と4番目がビジョンをどのように取りまとめていくかということになっています。大きくこの2つに分けて説明していただき、意見交換ということにしたいと思います。それでは最初に「(1) 令和5年度の検討の振り返り」と「(2) 前回部会での議論の状況」について説明をお願いいたします。

(1) 令和5年度の検討の振り返りについて

<事務局より資料1について説明>

(2) 前回部会での議論の状況について

<事務局より資料2について説明>

○会長 今日は委員会としては第5回になりますが、今年の2月に開催した第4回では、まちの全体像、あるいはビジョンの考え方のような大きな話をしていました。今日の資料でいいますと、資料2の1ページに記載のとおり、地域をいくつかの要素に分けて、論点の1～12というものを作り、一つ一つその状況について確認し、どういう方向を目指すべきかという議論をしていただきましたが、論点2・3・7・8・9・10が残っており、これらについて各部会でお話いただいたと思います。部会は、まちづくり部会と基盤整備部会があります。基盤整備部会の方は、主に公共空間を担っている行政の方たちが中心になり、どの

ように整備できるのかということ、先生方のご指導をいただきながら進めてきました。一方で、まちづくり部会は、地域の方たちにご参加いただき、まちをこれからどのようにしていきたいのか、どのようなまちにしていこうか、というような議論をしていただきました。その結果として、資料1の2ページにあるように、要素としては12の論点に整理をして分析してきましたが、まとめる時には、皆さんに受けがいいような並べ方にした方が良いのではないかとということで、細かく要素を区切って説明するよりは、「際立たせる」とか「磨き上げる」とか、そういったキーワードを打ち出してそこに集約したらどうかという話が、部会の方では進んでいると思います。

今日はこうした状況を受けて、その次の全体像をどうやってまとめて発信していこうか、ということをお話いただきます。まず、二つの部会での議論を受けて、先生方から何か「これだけ今言っておきたい」ということがあればお受けしますが、いかがでしょうか。

○学識経験を有する各委員（特になし）

○会長 それでは、一旦今の説明に関してご質問があればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○各委員（特になし）

○会長 大丈夫でしょうか。また、同じようなところにお話が戻ってまいりますので、もしわかりにくい点があれば全体をまとめていく中でご質問いただくということにいたします。

それでは、これからが今日の本題の議論になりますが、ビジョンの構成の検討と策定のスケジュールも一緒に説明していただいた方がわかりやすいと思いますので、議事の（3）と（4）を事務局から説明していただき、意見交換したいと思います。

（3）ビジョンの構成検討について
<事務局より資料3について説明>

（4）ビジョン策定のスケジュールについて
<事務局より資料4について説明>

○会長 ここからは皆さんと意見交換をさせていただきますが、資料3の3ペ

一ツの「ビジョンの構成検討について」をもう一度ご覧いただきたいと思います。これまで12の論点で要素を構成し、議論を重ねてきたものを発信するために、3つの新しい「コンセプトの方向性」を出してはどうかということが議論されてきたところです。これを具体的に基盤であったり、ソフトであったり、様々な取り組みとしてのイベントについて具体的に展開していかなければいけないということですが、そのことをどうお伝えするかということで、「戦略」という名称で9つにまとめ直してみた、というのが今日の資料だと思います。

最初は「文化を際立たせる」ということで、どのような資源がどこにあるのかというところから始まり、それを多くの方にどうやってお伝えするのか、あるいは「おもてなし」というところを、ソフト含めてどういった形で実現していくのか、ということについて考えてみようということが最初の柱です。

二つ目は、街全体を回遊していただくための方法を具体化するために、歩きやすく、あるいは佇んで楽しく時間を過ごせる場所をどうやって作っていくのか、空間を結わえていくのか、という議論です。その際、特に大事なものは「駅との関係」や「水辺の環境」で、その辺については少しお出しして、戦略を立ててはどうかということになっています。

最後は「磨き上げる」ということで、これを実際に面として、浅草全体を見てみた時に「面としての地域交通の必要性」もあるし、特に最近は雨や台風、その他気候変動がありますので「防災の問題」も大事ではないかと。インバウンドの方もいらっしゃいますので、そのような方に対して安心できる場所を提供することも大事です。さらに、そうした中で「粹なところ」をどうやってお伝えするのかということについて、少し整理をしてみてもどうか、というのが今日の事務局からの提案です。

資料3の3ページ右側にこれまでの部会で出てきた意見が書かれていまして、この整理はこれでいいのかどうか、あるいはもっと落とすべきじゃないかというご意見も多分出るだろうと思います。先ほどの9つ戦略についても、「表現を変えた方がいいのではないか」というご意見も出るかもしれません。

その辺りについて今日のご意見をいただきたいと思い、その結果を踏まえてもう一度それぞれの部会で議論し、中間まとめの案を作っていきたいということだと理解をしております。ここからは少し自由な意見交換の時間にしたいと思うのですが、まず先生方から口火を切っていただき、少し皆さんの考える時間を作っていた方が良いでしょうと思います。

○委員 皆さんに考えていただいている間に時間を稼ぐという意味で、まだ私自身もあまり考えがまとまってないところもありますが、ぱっと見て、思いついたことを述べたいと思います。

まず、「ビジョンコンセプトストーリー」を最初に出して、読み手にイメージしてもらおうのは非常に良い考えだと思いました。あと、Ⅲ章の「まちのありたい姿」のところで、いくつかのキーワードをイメージできるような絵で示してはどうか。例えば、いわゆる「下町を感じさせる通り」が何なのかということ。おそらくビジョンコンセプトストーリーのような形で書いていくと、これ以外の重要なキーワードについて、ビジョンコンセプトストーリーに入れていくべきものは、どのようなものがあるのか、が非常に大事だということが1点目です。

それから、いつも議論していて気になるのが、どうしても「観光寄り」になってしまうこと。住民の方も結構いらっしゃいますので、どんな人が住んでいて、どんな産業が立地してるのか、という視点が少し欠けているのではないかと思います。一応、2040年代を目指しているのですが、その時にこの「結わえる」という言葉をどう捉えるか。どちらかというと、この浅草の空間の「中」の話はしているのですが、「外」との接点はあまり書かれていないような気がします。「交通結節」は非常に重要なテーマでもあります。また、「交通結節」の話は地域内のいわゆるランドマークとか、拠点として非常に重要だという側面と、地域の人をどこへでも出ていきやすく、どこからでもここに入ってきやすいという「外との接点」のような内容が、資料3の3ページには欠けているような気がしています。言葉の使い方の問題かもしれませんが。

各戦略の表現で、「結わえる」をそのまま使っているところも、多分マイナーチェンジで何か変えられるような気がしますし、例えば、他の「磨き上げる」のところも1つだけ「磨き上げる」という言葉が戦略に入っていたりするので、ひよっとするとコンセプトで使ったキーワードは戦略の中では使わないというような見せ方も重要だと思ったのがまず感じたところです。

○委員 今言われたことと重なるかもしれないのですが、1点目は、プロローグで浅草の歴史に触れられるが、浅草の歴史って、良い時もあれば悪い時もあった。そういった、「当時の人たちが歴史を作ってきた」という内容を、何かぜひ書いていただきたい。つまり、このビジョンの取り組みが、「未来から見た時の歴史を作っていく」ということになるので、その感覚が共有できるようなパートになれば良いと思いました。

2点目は、資料3の3ページを見ると「下町を感じさせる」とか「浅草の粋なところ」など、非常に良い言葉が並んでいますが、これを具体的に考えていこうと思った時に、例えば「下町を感じさせる」というのは一体何なんだろう。もう少しかみ砕いてしていかないと、「言っているだけ」になる気がします。だからこそ、この部分を今後、きちんと進めていくということが非常に重要だと思います。

3点目は、多分このビジョンに合わせて、これから色々な新しい空間的な改変が出てくると思いますが、新しいものを作っていく、あるいはリニューアルをして作っていくという一方で、自然に更新されていく部分もたくさんあると思います。浅草はかなり建物が老朽化していて、向こう10年・15年で、建物の勝手な更新が相当あるような気がします。だから新しいものを作る一方で、自然に変わっていくものに対してどうコントロールしていくのかということが、非常に重要だと思います。

4点目は、外側のまちとの関係。墨田区とは結構繋がってきていますが、一方で上野との連携みたいなものもきちんと意識して、浅草ビジョンとしてまとめた方が良いかと感じました。

○委員 3点ありますが、最初の2つは既に言われてしまっていて、ほとんど一緒なのですが、「観光寄り」になっていないかと私も思います。というのも、戦略1・2・3の中で、観光が前面に押し出されており、一方で「文化を際立たせる」とか「歴史・文化資源をちゃんと見ていく」ということもあるため、必ずしも「観光寄り」ではなく、しっかりと浅草の産業を作っていくということも当然あるので、言葉の問題なのかもしれないですが、やはり本質的なものを文化や産業として育てていくということをもっと大事にした方が良いと思いました。

2点目は言葉の問題で、これから色々な工夫がなされると思いますが、先ほどあったように資料3の3ページ、戦略の記載で「結わえる」は揃っているのに、次の「磨き上げる」は二つが「磨き上げる」になっており、その辺りはこれから検討の余地があると思います。

3点目は、地区のお話で、目次案として出されたのは「三つの主要プロジェクト」という形で、六区周辺、東参道・二天門通り周辺、浅草駅・隅田川周辺の三つでの区分けでいいのか。「プロジェクト」という形なので、必ずその地区を網羅していこうというものではないので、その辺の考え方はどうなのか、後で答えいただけるなら聞いておきたい。

○委員 私からは大きく2点あります。

1点目は、このビジョン自体がマスタープラン的というか総花的で、色々なものを盛り込んだものになっている。色々なことが書かれていますが、もう少し強弱をつけて、何が大事なのかというところを、わかりやすくまとめていただくと良いと思います。

2点目は、私自身の専門である「公共空間のデザイン」・「景観まちづくり」の観点から申し上げますと、例えば見直し案のサンプルの中で六区周辺について「居心地の良い空間の提供」とか「にぎわい形成に資する空間の提供」とか、「○○

な空間の提供」みたいな言葉が結構入っていますが、それってどのような空間、どのような景観なのかというのが、全く具体的に示されていません。このビジョン本体にパース等の空間・景観を示すビジュアルを盛り込むのか、もしくは別冊でデザインガイドのようなものを作るのか、やり方は色々あると思います。これからの街の競争力を高めていくとか、魅力を高めていくといったことを考えると、やはり空間のあり方とかデザインの話は非常に大事だと思います。これから公共インフラも民間施設も色々更新がされていく時期が来ていると思いますので、ぜひその辺りを汲んでいただくと良いと思いました。

○会長 各先生のご意見は共通している部分もあり、ビジョンをどのように世の中の人に見ていただくようにするかを考えると、「なんか綺麗な計画書ができましたね」というようなことでは、少し物足りないのではないかと。「みんなでこれやっていこうね」という、メリハリがあるような、そういうことが伝わる言葉づかいも含めて何かできないのかという話ではないでしょうか。多分そこはまだ議論していないと思いますが、IV章の「ビジョンの実現に向けて」という、短期・中期・長期というのをより具体的に書いていくと、さらにはつきりすると思います。一方で、やはり「観光寄り」になっていないかと。どうしても浅草は観光色が強いので、観光のことが出てくるのは当然ではあるのですが、地元の方もたくさんいらっしゃるし、それから普段の地域を見ていくと、実は観光と関係なくまちの更新が起きていて、その更新のルールが何も無いまま動いていくと観光にも影響を及ぼすかもわからないし、住民の生活レベルとしても何か問題が起きるかもわからないのではないかと。その辺りも考えたビジョンにしておかないと、どこかに「綺麗な空間をつくりました」ということで全体が良くなるというものではないのではないかと、という話があったように思います。

あとは、「具体的なイメージをなるべく出さないといけない」「言葉だけだとわからないところもあるのではないのでしょうか」というご意見もありましたし、他の方もおっしゃっていましたが、外との関係についての記載が少し弱いと思います。上野やスカイツリーとの関係がありますが、築地の再開発が動き出したりすると、隅田川沿川を含めた動きは当然出てきます。

そうすると、そこの意識をやはり我々も持っておかないと、間違えてしまう。浅草の中だけうまくやっていたら済む話ではなく、東京の中で浅草がどのような役割を果たせるのか、という内容を書き込めると、東京都からのご支援をいただける、あるいは国からの支援もいただける、ということになると思っていました。

それではぜひ皆さんからもご意見をいただきたいと思います。わかりにくい点があれば、ご質問でも結構ですが、いかがでしょうか。

IV章の「浅草寺創建1400年」とありますが、2028年が比較的近いです。こういう超短期的なお話と、東武浅草駅開業100周年の2031年といった、あと7、8年ぐらいの時のイメージと、それからその先というような部分もぜひご意見としてはいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。関係する方もいらっしやいます。いかがでしょうか。

○委員 期間の区分としての感覚ですが、20年後をとりあえず目指すということで、2028年と2031年の間が3年しかないところは少し気にはなりません。

また、私どもは、浅草エリアと押上エリアを盛り上げていく、といったところを目指しており、そういった意味でも、本検討の課題解決というものがエリアの価値の向上にも繋がってほしいと考えております。

「水辺空間との繋がり」では、浅草駅に関わる話も出てくるかと思えますけれども、まちづくりやプランに合わせた規模や立地など、そういったものについては私どももスケジュール含めて取り組んでいきたいと思っております。

浅草駅の老朽化の話や、他の建物の話も出ておりましたが、浅草駅舎は93年経っておりまして、12年前に耐震補強工事は施工しておりますけれども、建物自体が駅と一体化しているものですから、抜本的に建物をどうするという結論が出ていない現状です。こういった機会を捉えて、ぜひまちづくりにも役に立っていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございます。本当はビジョンの中に、いろんなものが書き込まれていけばいいのですが、時間的にまだ間に合っていないところもあり、最終形が見えていない状況ではあります。ただ、2031年を目指して色々な議論を重ねていき、できればその時にはまとめて、皆さんに見ていただければ良いという感じでしょうか。スカイツリーの方は、特に何年に何があるとか、そういったお話はあるのでしょうか。

○委員 浅草駅舎は、12年前に建物の耐震補強を施工したというお話をしましたが、スカイツリーの開業にあわせて耐震補強を施工したかったということでございます。スカイツリーの方も12年経っているのですが、この先も多くの方にお越しいただけるような施設にしていこうとしております。鉄道としても連続立体交差事業の方も進めておりますので、使い勝手が良いようなまちになっていけば良いと思っております。

○会長 ありがとうございます。スカイツリーは20周年がちょうど、浅草駅開

業100周年と前後するぐらいですね。浅草寺の創建1400年については、出しても問題ないのでしょうか。

○委員 会長がおっしゃる通り、全く問題ございません。私ども浅草寺においては、開創1400年となる令和10年(2028)に向けて準備を行っております。ご本尊の御示現1400年を寿ぐ、記念開帳を実施する予定です。それまでに、現在修理中であります国名勝の「伝法院庭園」と、国重要文化財の建造物「本坊 浅草寺伝法院」について、しっかりと整備し、記念開帳の折には特別拝観を行うことを予定しております。

また、開創1400年の記念事業として進めている計画としましては、収蔵庫・宝物館の建設があげられます。現在の境内南側のトイレから二天門のあたりを建設地とし、延床面積は4,000㎡ほどになる予定です。専門家の調査によって、浅草寺には大絵馬を始めとした、大変貴重な什宝が伝来していることが明らかとなりました。それらを適切に収蔵し、公開する施設が寺には備わっておりませんでしたので、この度の記念事業の柱の一つとして、これを計画しております。設計は、帝国ホテルなどの設計にも携わる、フランス在住の田根剛氏に依頼しております。この計画は、寺の境内地を広く使う点においても慎重を要するものですので、元文化庁長官・青柳正規先生をはじめとした有識者に知見をいただきつつ、議論を重ねているところです。何分まだ設計の段階でありますので、検討に要する時間によっては、令和10年に竣工していない可能性もございますが、完成の暁には、浅草地域全体の価値が上がるものと思われれます。建築費もかさむ計画ですので、皆様方のお知恵・ご支援を頂戴しつつ、推進して参る所存です。

只今申し上げましたように令和10年に特別な行事を行う予定ですが、勿論それまでに境内の美観・安全性の向上のため、種々の整備を実施していくことが大切です。現在、本堂・五重塔・宝蔵門周辺の舗装工事を進めていますが、本年内に目途がつく予定です。また昨今の夏は異常な暑さであり、心地よくご参拝いただけるよう、本堂内陣の空調設備を刷新いたします。築100年が経過し、老朽化が顕著な仲見世の建物につきましても、参拝者を本堂にいぎなう参道として安全性が確保されるよう、銅葺き屋根の全面的な葺き替え工事を進めており、来年3月に完成する予定です。また、境内には一般の方が利用できるトイレが2か所ございます。利用しやすいトイレの有無は、常に問題となりますので、浅草寺としましては、平時においての衛生面・機能面は勿論のこと、災害時においても気持ちよく利用していただけるようなトイレとなるよう充実化を図っております。

以上、浅草寺として開創1400年を迎えるにあたっての計画および、心づも

りについてお話しさせていただきました。

○会長 ありがとうございます。今、一つの節目であることは間違いないので、ある程度、そういうターゲットに色々なものの力を集約させていくということはとても大事なような気がいたします。ただ、先ほど「ちょっと全部が間に合うかどうか」という話がありましたが、一発で終わってしまうよりは、その次もその次もと繋がっていく方が、まち全体としては良いのかもしれないという気がします。全体でどういう様なプログラムが組めるのか、時間的には厳しいですけども、一旦はそのようなところを、今日の資料3の3ページの右側に書いてある「各部会等のご意見の集約」の中で、できるものはどれか、というようなものがまずまとめられてくると良いと思います。このように書いてはどうかという意見も多分あると思うので、どうぞ、地元の皆さんからご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員 資料3の3ページの「快適性を磨き上げる」について。私は浅草で生まれ、浅草で60年以上商売してきました。昔の浅草は、交通機関としては「陸の孤島」だと言われており、その中で商売を一生懸命やってきました。所帯を持ってから台東区外に住むようになり、台東区外から浅草へ来る際、都営地下鉄ができて非常に便利になりました。

しかし、あの長さの階段を毎日昇り降りしなしなければならぬ状況で驚きました。その時はまだ30代で、足腰を鍛えれば良いと思い、若さに任せて通勤してました。

最近では、成田空港から羽田空港まで都営地下鉄を使うと行き来できるようになり、乗降者は当初に比べてかなり増え、インバウンドが現れてからは大変な状況になっています。

地下鉄については、銀座線を作っていただいて、リニューアルもして非常に快適性がありました。ですけど、それぞれの路線で来た人が浅草の街に出るまで、そんな大きな苦労はしていないと思いましたが、都営浅草駅で降りた方は、大きいスーツケースをたくさんお持ちの方や家族連れで子どもがいると、天国へ続く階段のような長い階段の昇り降りは本当に大変です。今は都営浅草駅の改札を抜けたすぐ目の前に銀座線の改札口があります。入場料を支払うことで銀座線のホームを通り抜けができるようになったので、松屋浅草が営業している時は売り場のエスカレーターで昇って地上まで出られます。松屋浅草が営業していない時でも、長い階段を一気に昇るのではなく、何回かに分けて昇ることで、少しは楽に昇れるようになりました。

ただ、銀座線のホームを通り抜けするには一区間のお金を払わないといけな

い。ですから、もし銀座線のホームを通路として許可していただければ、浅草に来た人たちの苦勞が報われるのではないかと。最近、都営地下鉄さんの方から「新しい出口を考えてます」とか、東京メトロさんの方ではかなり前から「新しいエレベーターを作りました」と言われて、一部では工事が始まっていると思いますが、実際に開通するのは3年先5年先、もっと先だというのであれば、この10年の間に、浅草を目指してきた人たちが地上に出るまでの困難に遭ったうえで、また浅草に来ようと思うのか、と考えてしまいます。なんとか入場料無しに銀座線のホームを通り道の一つとして使用できないものかと20年以上考えています。このような会議があるとその都度話をしますが、今まで具体的な回答はありません。

浅草はまたインバウンドで「観光だ観光だ」と騒いでいますが、観光客が少なくなってきた時に、浅草はどう暮らしていくのか。前のオリンピックが終わった後の大不況の時は、浅草が本当に空っぽになるほど大変な時期がありました。観光の観点では確かに復活しましたが、これがどこまで継続するようになるのかは、我々が考えなければならない大きな問題だと思います。浅草は昔からの地場産業がありましたけど、たくさん残ってるとはいえ昔の規模ではない。ということは、商業に来る人たちも少なくなってるはずで、観光客も、浅草に来てあの長い階段を見たら足踏みをするのではないかと思う。真剣になって考えていかならそこから考えていかないと駄目だと思う。

浅草をいくら良く作っても、「人情がある」とか「こういう変わった風景がありますよ」「下町の気質がありますよ」といっても、それに触れる人の数が少なくなったら、観光客はどんどん減っていくわけですから、もう少し地元の人間のことをしっかり考えなければいけないと思います。

○会長 ありがとうございます。資料3の3ページの表の戦略5に「駅とまちが一体的につながる、抜本的な都市基盤整備推進」とありますが、これは一体何なのかという話が今のご指摘だと思います。そもそもスムーズな乗り換えとは、あるいはユニバーサルデザインで誰もが簡単に行けるような、そのような空間ができるかどうか。引き続き基盤整備部会でご検討いただきたいと思います。

○委員 先ほどのご意見のようなことができないならば、他のことなんかできないではないかと散々言ってきている。それなのに20年と言っても、やらないんだったら何をどう変えるのか。

それと、またトイレと書いてあります。トイレを増やすというのは、つい最近観光課で、浅草エリアにおける観光の問題点についてアンケートが実施された。ゴミ箱が少ないからということで行政にお願いしたら、結論はゴミ箱の設置は

困難であるとか不可であるということだった。人の話を聞いておいて不可はないのではないか。その不可と言われた理由は、清掃隊を使って掃除する回数を増やすしかないということだった。特に浅草エリアは、インバウンドもあってゴミだらけにされてる。事実です。それを気持ち良くするのであれば、すぐにスマートゴミ箱みたいな話になってしまう。そうではなく、普通のごみ箱でも良いので置いて、回収回数を増やせば良いのではないかと思う。素人考えではあるが、そのようなことは不可能だと言われたら、何の意見を出せば良いのか。

トイレを増やして欲しいということはわかるが、これは難しいと思う。5,000万円程度が必要となる。トイレを増やしていくようなことが書いてあるが、アイデアだけで話をしても仕方ない。具体的に数値化できて、予算化できるようなものでないと、話をしても仕方ないのではないか。だから例えば、トイレだけ異様に管理されてるというのでも良いと思います。

また、防災拠点をリンクさせる。とにかく防災、安心安全。

目に見えることに特化しないと、20年先は何だかわからないではないですか。目に見える、肌に触れられる、やろうと思えばすぐできる、その積み重ねでやっていただきたいと思います。

○会長 ありがとうございます。2028年とか、2031年までに何をするのかというのを具体的に書けないか、ということですね。もちろん事業者だけがやるわけではなくて、他の地域ですとエリアマネジメント団体が、自ら清掃活動を実施していますが、様々な意味で、多くの方が持つ力を借りながら、2028年、2031年に具体的に実現できることをきちんと書かないと、ビジョンとはいっても意味がない、というのはおっしゃる通りです。

ただ、全てを書けないとすれば、こういうことを考えたので、今後もみんなで検討をしていくということを書く。こういった引き続きの議論に委ねるという手もあるかもしれません。

○委員 再三の発言で申し訳ございません。これまで私が浅草でずっと商売をやってきた間に、観光都市だと言いながら観光客を呼ぶ努力を、役所としてはしていないのではないか。地上での連結とか、電車が駄目ならば水運というものもあります。隅田川には、一船で500~1,000人を運ぶような船があります。隅田川をうまく使って、観光客を呼んでもらいたいということで、ここ10年程前から運動はしているが、そのような動きが全然見えない。東京都の管轄だから、管轄外だから逃げてしまう。それでは駄目ではないか。墨田区はそういった運動をかなりしているという様に聞いています。だけど台東区では、それほど大きな力を持って動いた運動というのはあまり聞いたことがないです。

昔、このような会議があって、大学の教授の方から、山の手と川の手と分類化し、山の手はどんどん発展しているけど、川の手は川で分断され発展が妨げられているのだと聞いたことがある。しかし、川をうまく使えば、発展することはできるといようなお話を聞いていて忘れていない。こちらが駄目なら今度はこれだという考え方を持って物事を進めていかないと、やっている方は何となくやりがいがなくなってしまう。そういったことも加味していただきたいと思います。

○会長 先ほどの水運の話は、当然これから出てきます。築地が変わるとそこに大きな船着き場ができてきますし、日本橋川も変わってきますから、舟運は今以上に重要になってくるのではないのでしょうか。

○委員 テレビ番組で観ましたが、タワーマンションを規制し、禁止する。これから先、タワーマンションを作ると30年後程度で廃墟化すると言っていた。また、ニュータウンか何かを建設していたらしいのですが、そっちがスポンジ化してしまうと。この中には入っていないが、このままだとマンションだらけになっているのは事実なんです。そういうのをどう思われるのか。タワーマンションの歴史は割と新しく、それが老朽化してきたらどうしていくのか。また、高層ビルについては大きな地震があった場合、エレベーターは全て点検しなければ使えないですね。そういったことも考えて、浅草に住んでいる人間にとって便利なまちづくりというのは肝心で、新しい考え方なのではないかと思うのです。

○会長 先ほども出ていた、建物の更新ルールを皆さんで共有できるということでしょうか。それぞれ土地所有者が、自分でやるのだから勝手ではないかと言うのを止めるためには、建物の更新ルールを共有しないと止められないです。時間がかかるかもしれませんが、建物の更新ルールを作っていないと、おっしゃったとおり、バラバラになって浅草の個性が消えていくのではないかというご心配は、前々から出ているとおりでと思います。

○委員 一点、確認というか感じたことですが、このビジョンを作られて、2038年の見直しのタイミングが来ると思いますが、見直しをかけていく時に、何をもって良かった悪かったの判断をするのかということところが、少しわかりづらいと思いました。姿とコンセプトと戦略とアイデアは出ているのですが、目標的なもの、物差しの無いように感じたのですが、あえて作っていないのでしょうか。先ほどのトイレの数などはまさにそうだと思うのですが、何が実現できれば達成なのかということ、ロードマップを作る時に併せて整理された方

が良いのではないかと思います。

○会長 先ほど、言葉では書いてあるけど実際にその空間はどの様になっているのか、というような話に通ずることがあって、具体的な数値目標のようなものになります。記載できるのであれば、加えた方が良いのではないかと。実際に作った後は、それぞれの動きをチェックしていく。モニタリングをしていくことは当然必要なので、ビジョンを作ったらお終いという訳ではない。それをどうやって動かしていくのか、動かしていく時に情報をしっかり捕まえて、提供して、変えるべきところは変えていく。そういうのはレポートを作ったらお終いではないです。継続的にそういったことを実施するタイミングとして、先ほどおっしゃった通り2028年とか2031年というのがある種の目標になると思う。皆さんがそうであれば協力して実施するという話ができるかもわからない。そういう感じだろうと思う。

○委員 資料を拝見していて、盛沢山すぎないか。この中で1つでもできれば良いです。あれもこれもというと、いつもそうなのですが、1つ1つの意見はとても素晴らしいのですが、あまりにたくさんあって、結局、厚いビジョンができました。みんなおめでとうと終わってしまう。紙1枚で良いから実現するものが1つ、それがあれば私は良いかなというように思います。

例えば防災について、防災で1番大事なことは、マップを作るのも大事なのですが、マップは活かさなければいけない。例えば大地震が起きた時に1番大事なのは、今自分がどこにいるのかということがわかることです。雷門前とか浅草寺境内にいる分にはわかると思いますが、浅草の街のどこかにいて、自分が今どこにいるのかわからないと、ハザードマップを持っていても何の役にも立たない。例えば、マンホールに全て方向が書いてあれば、それだけで今自分はどこにいるのかということがわかる。台東区内、浅草の全てのマンホールで方向がわかるものにしていくというような話であれば、私はいくらでも話ができると思います。実施することを絞っていただきたいということです。

○会長 ビジョンがレポートを作るだけで終わるのでは意味がない。皆さんが先ほどからおっしゃっているとおり、それを具体的なプログラム、あるいはアクションに変えていかなければいけない。ということは、ビジョンは作って終わりではなく、作った時が始まりであって、ある種の目標感を持ったアクションが続いていき、それをどこかでモニタリングをしながら、しかもそれが極めてわかりやすい皆さんの共通の大きなプロジェクトもあるし、比較的地道なアクティビティの重なりで実現できるものもある。その辺がごっちゃになると、あれもこれ

もとなってしまう、とてもわからなくなってしまうというふうなお話であったと、そのような感じがしました。

今回の委員会の次、部会を1回開催して、10月に第6回策定委員会を開催するのですが、ビジョンがまとまるか、やや不安ではあります。今日の目次の形で良いとするならば、それに対してもう一度、より書き込んだものを一旦見ていただき、場合によっては、それをさらに議論していただいて、パブリックコメントに繋げていく方が、素直なのではないかという気がします。少し消化不良で、総花的でというのは、皆さんもそういうものではないだろうとおっしゃっていますので、少し突っ込んだ議論をするためには、部会でもぜひ、本当に何ができるのか、何をするのか、いつまでにそれを実現するのか、全部が実現できなくてもこのアクションを起こして、あるタイミングまでには何かみんなで合意しているとか、そのようなプログラムが描けるようなものにするには、もう1回委員会を開催する必要があるかもわからないですね。

○委員 先ほどから伺っていて、各部会も相当回数を重ねて色々なことを出してきていただいていると思うのですが、やはり根本は観光のためにどうやって来てもらうかというのがあり、それをどうやって散らして広げるのかというのがありますが、住んでる人は実は逆で、静かにゆっくり暮らしたいんです。

人が来てくれたり、外国人が歩いたり、ゴミを置いて帰ったりされるよりも、もっと楽に、安心安全で暮らしたいというのが、住んでいる人の根本の考え方だと思います。建物はみんな老朽化してますから、10年の間には建て替えが起こってくるだろうと思います。浅草は小さい坪数の家がたくさんあるので、マンションが来るのが遅れていたけど、最近はだんだんとマンションが入ってきました。マンションが建つと、そこに住んでいる人たちは街との接点は全くないですし、私がいつも思うのは、例えば1階の部分は、多少地域に開かれたお店であったり、お休み処であったりというようなもので、開かれた空間を、例えば行政側からこのマンションを建てるに当たっては、こういった条例がありますよ、という形で、マンションの許可が下りていけば、もう少し良くなるのかなとすごく思いますし、それで観光客が来なくなるってことはまずないだろうと思います。要するに、古いものと新しいものが一緒になって、外でお酒が夜中まで飲めて、食べ物を持ちながら平気で歩けるような国は日本ぐらいしかないでしょうから、そうするとマナーの悪い観光客がこれからますます増えていって、マナーをいくら教えようが何をしようが、多分自国の常識を持ち込んで行動し、喜んで帰っていくという形だと思うので、何か紙を書いてこれをしたら駄目ですよ、というのも少し違うと思う。そうすると、例えば浅草ルールみたいなものを作っていただいて、浅草に来た外国人はこれをちゃんとしなければ駄目なんです、とい

うようなルールをしっかりと見せてあげる方が早いと思います。シンガポールでタバコ吸っていたら、その場で罰金を取られるような、そんな形でないと。彼らの常識論をどこまでも持ち込んでくるので、こちらもちの常識をちゃんと持っていて、お互いが共有できるような何かを出せたらありがたいというようにも思っております。

○会長 今の浅草ルールは、先ほどおっしゃったように、建て替えのルールにも、ひょっとしたらそういう浅草ルールがあるのかもわからないし、インバウンドで浅草に来られた方も、ライフスタイルのマナーとしてこういう浅草ルールがあるのだということを理解して行動していただくのもあるかも知りません。それから例えば、路地があって車も入ってくることもあるし、人力車もいろいろ通っている。そういう交通についても浅草ルールがあって、例えば荷捌きは何時にして、なるべく歩行者と物流車が混在しないようにしようとか、土日は車を少し止めるとか。交通実験はやっているんですよね、やるんですよね。そこもついでに説明してしていただけますでしょうか。どんな状況になってるかだけでも。そういうルールも、何か考えなくてはいけないのだろうと思います。

○事務局 社会実験をやらせていただいて、道路の使い方や空間というのをどのようにしていったら良いのかということは、昨年度から実験をさせていただいております。昨年度はパークレットと申しまして、歩道の一部を拡張したらどうい滞り行動が生まれてくるか、車がどのような動きになるかという社会実験をやらせていただきました。

今年度につきましては、今、地域の皆さんとご相談しながら、どうやって、いつの時期にどんな内容で進めていけるかを相談しているところです。雷門通りの一部を通行止め、あるいは車道の車両の制限、通行制限をした上で社会実験をやらせていただければというように考えております。

ただ、本来であれば秋ぐらいに実施するというように皆さんとご相談していたのですが、まだまだ皆さんと相談していくことが必要になりそうですので、もう少し地域、特に影響の大きい沿道の皆さんとご相談しながら、いつの時期にどのような内容で社会実験ができるのか、考えていきたいと思っております。

○会長 社会実験をしながら評価し、直すべきところは直す。トライアルしてみないとわからないことがある。昔はなかなかこういった実験をやらせてもらえなかったのですが、最近は大いぶ頭の中が柔らかくなって、とりあえず社会実験を実施して評価してみれば、というようなことを各地で取り組み、その実験内容の方向に変わった例もあれば、止めた方が良いのではないかなった例もある。

実際に社会実験を実施した経験をベースにして考えていこう、ダイナミックに動いていこうという、そういう感覚ですから、もしかすると一発ではわからなくて、トライアルでやってみて、例えばインバウンドにこういったものを出してみたら、何が起きた、みたいな話で、リニューアルしていくとか、アップグレードしていく方向というのも良いかもわからないです。そうすると例えば、紙で出したものが、スマホで必ず皆さんに届くようにした方が良いというようになっていくとか。そういった協力を、色々な企業からいただいでいく。動いていて考えながら、少しずつ変えていく。でも、最初のスタートを切らなければ何も変わらないので、皆さんが問題意識を持ってらっしゃるところについて、一旦は何かこういう場を使ってでも考えていきたいと思います。先ほどの浅草ルールというのはとても良い表現だと思いますので、何か考えられると良いなと思います。

○委員 2つありまして、1つは、雷門前に地下駐車場があって、あれはこのままなのか。あれはそろそろ改修しないといけないのではないか。30年という期間であれば、建て替えとかという話になるのではないか。

○事務局 施設の老朽化等を見ながら、どうしていくかということを考えていくべきだと思っております。今のところ具体の計画があるわけではないのは、ご指摘の通りです。

○委員 それともう1つ。社会実験といろいろと書いてあるが、実験をやるのであれば、我々に実験の目的と成功失敗の判断基準を指し示してからやっていただきたい。具体的にこうなったらこれはうまくいってると思う、と。そうでないと、実施できたから成功だ、みたいなことが地元民としては一番嫌なんです。そういう具体的な事前説明がないから、なかなか協力を得られないと思います。こういう目的でやりたいと、この目的を達成したならば、地域の方達にとってプラスですよ、という説得と、実験を実施した場合、具体的に人流がどうなったとかを数値で表すとか、そういうのがないまま、やりましたで終わってますよね。だからそういうことをもっともっと真剣に考えてもらいたいと思っております。

○会長 他の地区でも、実際にこういう社会実験をいくつかやるのですが、その時に駐車状況はどうなってる、交通量はどうなっている、あるいはアンケートをする、そういったことを重ねて行って、1回目、2回目、3回目と、何回かそのブラッシュアップをしていき、最終的な形に近づいていく。今、渋谷でも実際に実施していますけど、いよいよ本格的に道路の構造を変えようかという議論ま

で、やはり数年かかって動きました。1回だけではなかなか全部うまくいくというものでもないケースも多いので、少しやりながら。これはけっこう慣れなんです。例えば時間制限をして、物流をこの時間にやってみようなんていうのは、面倒くさいから嫌だなと思いますが、実施してみて、いや、できるんじゃないかなってなると、もう1回実施する、みたいな話があるので、慣れもある。少しずつ、一步一步だけ評価をしながら進んでいく、ということに行けるといいと思います。ビジョンで終わらせずプログラムにして、具体的に評価をしながら中身を更新していくということにしたいと思います。

ありがとうございました。先生方で、今までのご議論も踏まえて、何かご注意があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 地域の方々の、色々なご意見を伺って、さりとてビジョンはビジョンなので、あまり細かいことということよりも、今回目標としている2040年ぐらいに、最終的にどういう姿を見せるのかということころを、端的に書くべきだと思います。

ただし、例えばトイレの問題とかゴミの問題とか水運・舟運とかまたマンションとか、色々な重要な論点が出てきましたけれども、片やこのビジョンに付随して、アクションプログラムみたいなものを検討する組織があって、このビジョンに基づいてそういう具体的な声を聞いていきながら、大局的にはビジョンの方向性を目指すという姿勢も重要だと感じた。ビジョンはビジョンとして、という立て付けと、それから今日出たような話で、多分ビジョンとしては少し細かいけれども、やらなければいけないものをきちんと別の形でドキュメントを用意して、そこはきちんとその協議ですかね、例えば数値目標とか、これを管理する体系というのがないという話もありましたので、きちんと進捗管理をできるような体系組織も含めて、それを合わせて多分検討すべきと、今日の議論を聞いて感じました。

○委員 昨年度の社会実験に研究室として関わらせていただいたのですが、実施した結果はきちんとデータも取ってますし、その中で渋滞が発生しなかったとか、色々な人が滞留して色々な使い方をしてくれたとか、前向きな結果が出ています。まさに先ほどご発言があったように、やはり実施して終わりではなく、結果をきちんと地域の方にフィードバックしていただいた方が良かった。

あと今しがたお話にもありましたけど、やはり大きなビジョンと小さなアクションの両輪で進めていかないと、物事は変わっていかないと。今、大きなビジョンの話の詰めている段階だと思うのですが、それに紐づいて段階的

に何ができるのかということ、ぜひ具体的に書き出してご議論いただくといかなと思いました。

○会長 ビジョンというと、20年後、30年後でこのような街になりますというのを書いてお終いみたいな、そういう印象が強いかわかりませんが、ここでやろうとしている浅草ビジョンは、先ほどの浅草スタイルで、何か一旦まちの姿は考えて、でも節目節目があるじゃないかと、その節目に何をやろうかというのを同時に、ビジョンを作った後も続けてアクションとして動かしていく。そして、チェックをして、フォローアップをして、改善していく。そういったことをうまく全体像がわかるように、やれるといいですね。歴史を作ってるというご意見もありましたが、そういうことをこのビジョンでやっていくんだということが、最初のプロローグのところでしっかりと伝わって、作ってお終いということでは全くないと、そういうことでスタートを切ると、それによってこのことを契機にしてアクションが起きていき、そのアクションの続いた結果がビジョンのあるべき姿に近づいていく。そのような全体のメッセージを出しながらまとめていければ良いと思いますし、今日の今の段階だと、まだ皆さん、何をやるのだろうか、みたいな感じなので、大変恐縮ですけど委員会の回数を1回だけ変えさせていただいて、中身を見ていただいて、これやろうじゃないかと皆さんで思っていただけのような内容にしていきたいと思います。よろしく引き続きお願いをしたいと思います。

ありがとうございます。他に特に発言しておきたいという方がいらっしゃればお受けしますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは一旦事務局にお返しをしたいと思います。よろしく申し上げます。

4 閉会

○事務局 本日はお忙しい中皆さんにご参加いただきまして、また、長時間にわたりまして貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

先ほどスケジュールの話も出ましたので、事務局の方でスケジュールを調整し、また改めて、皆さんには次回以降の段取り等についてお伝えさせていただきたいと思います。

以上をもちまして第5回浅草地区まちづくりビジョン策定委員会を終了させていただきます。どうも今日は、ありがとうございます。

11時40分 閉会